

■■化学療法投与計画書《mFOLFOX6療法》■■

実施日	
-----	--

患者番号	性別	身長	cm	
カナ氏名	生年月日	体重	kg	指示医
患者氏名	年齢	体表面積	m ²	

Rp) レボホリナート(アイソボリン) 200 mg/m² day1
 フルオロウラシル(5-FU):bolus 400 mg/m² day1
 フルオロウラシル(5-FU):持続 2400 mg/m² day1~2 インフューザー使用 2.5mL/時間
 オキサリプラチン(エルプラット) 85 mg/m² day1

2週毎

ファモチジンD錠10mg2錠内服

レジメンコメント1
レジメンコメント2

本管①

15分	パロノセトロン点滴バッグ	1	袋
	0.75mg50mL		
	デカドロン注射液1.65m	4	管

本管②

大塚糖液5% 250mL(5%TZ)	1	袋
レボホリナートカルシウム		mg
〈腫〉アイソボリン点滴静注用100mg:		
〈腫〉アイソボリン点滴静注用25mg:		

<実施時の注意>
 漏出時:直ちに投与を中止し、薬剤を吸引、洗浄し、ステロイドの局注、ステロイドの外用剤で対処する。オキサリプラチン投与時は寒冷刺激により末梢神経障害が誘発されるため患部の冷却は避ける。
 ●オキサリプラチン
 アルミニウムとの接触により分解するため調製時あるいは投与時にアルミニウムが用いられている機器(注射針等)は使用しないこと。
 ●フルオロウラシル
 TS-1投与中もしくは投与中止後7日以内→投与不可

側管① レボホリナート開始時120分かけて

120分	大塚糖液5% 250mL(5%TZ)	1	袋
	オキサリプラチン		mg
	〈腫〉オキサリプラチン点滴静注液100mg「NK」:		
	〈腫〉オキサリプラチン点滴静注液50mg「NK」:		

<注意すべき副作用>
 ●過敏症 ●食欲不振、吐き気
 ●口内炎 ●脱毛(頭髪、まつ毛、眉毛など)
 ●手足のしびれ
 ●白血球減少 ●赤血球減少(貧血)
 ●血小板減少 ●肝機能低下

側管② レボホリナート終了時5分かけて

5分	【50mL】生理食塩液 50mL	1	瓶
	フルオロウラシル		mg
	〈腫〉5-FU注1000mg:		
	〈腫〉5-FU注250mg:		

本管③ 全量105mL(適宜増減)に調製

46時間	【mL】生理食塩液 100mL	mL
	フルオロウラシル	mg
	〈腫〉5-FU注1000mg:	
	〈腫〉5-FU注250mg:	

ポンプの流速は2.5mL/時間に設定(必要時ポートフラッシュ)

<用量規制因子>
 投与予定日に好中球数 $\geq 1500/mm^3$ 、血小板数 $\geq 75000/mm^3$ であること。
 前サイクル投与後にGrade4の血液毒性もしくはGrade3の非血液毒性を認めた場合、Grade1以下に回復後、投与を再開する。Grade4の非血液毒性を認めた場合は中止する。
 ●オキサリプラチン
 進行・再発:85mg/m²→65→50
 術後補助:85mg/m²→75→55
 ●フルオロウラシル
 急速:400mg/m²→300→200
 持続:2400mg/m²→2000→1600